



キッコーマン
 塩麴でつくる白湯鍋スープ (200g) **340円**

肉の旨みを引き立てるために、塩麴で肉を漬けこみつくる白湯鍋スープです。塩麴と白湯スープがセットになっています。肉に塩麴がしみこむことで肉の旨みが増し、まろやかな味がスープに溶けだして、野菜・豆腐をおいしくします。白湯スープ1鍋分のコラーゲン4,500mgを配合。鶏がらととんこつの風味が生きるノンレトルト製法です。



キッコーマン
 うちのごはんできたて My Deli
 スンドゥップチゲ (85g) **200円**

絹ごし豆腐半丁を加え、電子レンジで約4分加熱調理するだけで、簡単に「スンドゥップチゲ」が出来上がります。魚介のだし、丸大豆しょうゆのうまみとにんにく、コチュジャンのコクと辛みが絶妙な味わいです。豚肉、長ねぎ、しいたけ、たまねぎの具材入りです。



デルモンテ
 ケチャップ・ハーフ (450g) **オープン価格**

従来のトマトケチャップのおいしさそのままに、カロリーと塩分を50%カット(*)しました。世界中から厳選した完熟トマトに、りんご・パイナップル・トマトの3種のビネガーと、専用にブレンドした香辛料、そして三温糖を使用しています。またケチャップの粒子を細かく均一化する製法を採用し、なめらかな舌触りと、トマトのコクや甘みがより感じられます。甘味料や食品添加物は使用しておりません。

(*)「日本食品標準成分表2010」トマトケチャップと比較



マンズワイン 甲州 酵母の泡
 ブリュット (720ml) **1,500円**

山梨県産甲州種を100%使用し、「キューヴ・クローズ(シャルマ)」方式で造り上げた本格的な味わいのスパークリングワインです。長く続く繊細な泡立ちと、淡い黄金色のきれいなワインの色が上質な雰囲気をもたらします。甲州種特有の上品な香りと柔らかな酸味が調和し、心地よい口当たりと飲み口の良さが特長です。料理と合わせやすい、すっきりとした味わいのブリュット(辛口)タイプです。



豆乳飲料 ゆず (200ml) **90円**

ゆずは古くから日本人に親しまれてきた食材です。ほんのりとしたゆずの香りは日本人が好む風味の一つ。本品はゆずの香りのおいしい豆乳飲料です。隠し味にりんご果汁を使い、酸味と甘みをバランスよく仕上げました。すっきりとしたやさしい味わいで、リラックスしたい時などにおすすめです。女性に嬉しい食物繊維を強化し、1本(200ml)あたり3.8gを含んでいます。



デルモンテ 温野菜 (900g) **372円**

「温めたら野菜スープ」「冷やしたら野菜ジュース」2つの味が楽しめる新感覚の野菜飲料です。トマト・にんじん・たまねぎを中心に10種類の野菜をおいしくブレンドしました。また、炒めたたまねぎを使用することで、野菜のコクを引き出しました。いろいろな飲み方で野菜を味わうことができます。カップ1杯(150ml)に1日分の緑黄色野菜(*)を120g分使用しています。

(*)1日の緑黄色野菜摂取量の目標は120g分以上とされています。(厚生労働省推進の「健康日本21」より)

* 価格は希望小売価格であり、消費税は含まれておりません。



キッコーマングループ IR Report

第96期 第2四半期決算のご報告 平成24年4月1日～平成24年9月30日

●CONTENTS●

- 1-2 株主の皆様へ-財務ハイライト
- 3-6 業績の概要 国内/海外
- 7-8 **Focus** 国内事業
 独自性と顧客価値を追求
 いつでも新鮮しぼりたて生しょうゆ やわらか密封ボトル 450ml
Topics 国内事業
 キッコーマン総合病院 新病院オープン
- 9-10 **Focus** 海外事業
 海外現地レポート(東南アジア)
 多様な文化に合わせた販売戦略で、拡大する市場を開拓
Topics 海外事業
 海外デルモンテ事業 香港でイベント開催
- 11-12 連結決算
- 13 会社の概要/株式の状況
- 14 株主メモ/株主優待制度のご案内/特別口座から証券会社の口座への振替について

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第96期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)第2四半期の業績のご報告を申し上げます。

経営理念

私たちキッコーマングループは、

1. 「消費者本位」を基本理念とする
2. 食文化の国際交流をすすめる
3. 地球社会にとって存在意義のある企業をめざす



代表取締役社長 CEO 漆谷 光男

当第2四半期の業績のご報告

キッコーマングループの当第2四半期の連結業績は、売上高は1,471億5千8百万円(前年同期比103.8%)、営業利益は103億5千6百万円(前年同期比110.6%)、経常利益は92億7百万円(前年同期比112.6%)、四半期純利益は48億5百万円(前年同期比109.4%)となりました。

売上は、国内については、しょうゆは前年同期並みとなり、食品、酒類が売上を伸ばし、飲料が大きく伸長したことにより、食料品製造・販売は前年同期を上回りました。海外については、しょうゆは現地通貨ベースで、北米・欧州を中心に順調に売上を伸ばし、食料品卸売事業も好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

今後の見通しと課題について

海外のしょうゆ事業については、米国は重要市場として、高い水準で安定成長を続け、海外事業の成長を牽引していくべきものと考えております。欧州は2桁成長の継続をめざしてまいります。アジアは、地域毎の市場攻略プランを着実に実行し、販売量の拡大とともに利益水準を向上させることが課題であります。さらに今後、中南米やインドなどの新しい市場で、レシピ提案等を通じて現地の食文化との融合を図り、新たな成長エリアとして確立するとともに、「グローバルスタンダードの調味料」としての地位を築いていきたいと考えております。

食料品卸売事業については、日本食ブームが進行するなか、

日本政府も「和食」を世界無形文化遺産へ登録するための活動を進めており、このような追い風を活用し引き続き拠点の展開を進めてまいります。

さらに、海外において、しょうゆ、東洋食品卸に次ぐ事業として、デルモンテ、豆乳、健康食品などの事業について、高い収益をあげるビジネスモデルを確立し、新たな柱へと育てていきたいと考えております。

一方、国内事業については中期経営計画において、収益力を向上させることを最優先の課題として、取り組みを進めております。しょうゆ・食品部門においては、コスト競争力を高めるとともに、市場規模が縮小しているしょうゆの高付加価値化を進め、さらにつゆ類・たれ類やそうざいの素など、より加工度の高い領域における展開を強めてまいります。飲料は、デルモンテ飲料をより成長させるとともに、豆乳の市場規模及びシェアを拡大し、成長性と収益性を維持したいと考えております。また、間接機能についても効率化を進め、国内事業の収益力向上をめざしてまいります。

このような取り組みとともに、「グローバルビジョン2020」に掲げる「地球社会にとって存在意義のある企業となる」ことをめざしてまいります。2012年8月には、キッコーマン総合病院が新病院として生まれ変わりました。このような地域社会への貢献や、食文化の国際交流、食育など、当社グループらしい取り組みを通じて、企業の社会的責任を果たしてまいります。

中期経営計画

当社グループでは、2020年(平成32年)を目標とするグループの将来ビジョン「グローバルビジョン2020」を策定しており、その実現に向けて、具体的に中期経営計画や単年度計画に落とし込みを行っております。

平成26年度を最終年度とする中期経営計画の重点課題及び連結業績目標は次の通りであります。

《重点課題》

1. 海外事業の成長性と収益力の強化
2. 国内事業の収益力向上

《平成26年度の連結業績目標》

1. 売上高 3,200億円(平均成長率 4.6%)
2. 営業利益 230億円(営業利益率 7.2%)
3. ROA 7.0%

※詳細は、次のURLからご覧ください。

http://www.kikkoman.co.jp/ir/library/presentation/pdf/info201203_1.pdf

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

グローバルビジョン2020

【目指す姿】

1. キッコーマンしょうゆをグローバルスタンダードの調味料にする
2. 食を通じた健康的な生活の実現を支援する企業となる
3. 地球社会にとって存在意義のある企業となる

【基本戦略】

- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1. しょうゆ世界戦略 | 高収益のビジネスモデルを世界へ広げる |
| 2. 東洋食品卸世界戦略 | 日本食の拡大を追い風に、世界にネットワークを広げる |
| 3. デルモンテ事業戦略 | 日本及びアジア・オセアニア地域での展開を強化する |
| 4. 健康関連事業戦略 | 企業買収などにより、パイオ、健康食品を拡大する |
| 5. 豆乳事業戦略 | グループの新たな柱として育成する |

財務ハイライト(連結) 売上高

(単位: 百万円)

- 第2四半期
- 期末



営業利益



経常利益

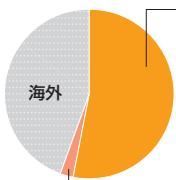


第2四半期(当期) 純利益



国内

事業別売上高構成比



食料品製造・販売事業

53.1%

売上高 前年同期比 106.7%

787億2百万円

営業利益 前年同期比 152.8%

33億3千1百万円

その他事業

2.7%

売上高 前年同期比 99.3%

102億1千3百万円

営業利益 前年同期比 88.3%

7億5千7百万円

食料品製造・販売事業

しょうゆ部門、つゆ・たれ・デルモンテ調味料等の食品部門、豆乳飲料・デルモンテ飲料等の飲料部門、みりん・ワイン等の酒類部門からなり、国内において当該商品の製造・販売を手がけております。

しょうゆ部門

しょうゆは、家庭用分野では、既存商品は引き続き減少傾向にあります。生しょうゆの「いつでも新鮮」シリーズで「やわらか密封ボトル」450mlを発売し、好調な200mlボトルと併せて、減少傾向に歯止めをかけました。また、当四半期より発売した顆粒タイプの「旨粒しょうゆ」も売上増に貢献しました。しかし、加工・業務用分野は市場環境が厳しく、前年同期を下回りました。この結果、部門全体として前年同期並みとなりました。



食品部門

つゆ類は、家庭用分野では、前期より導入の「からめる具麺ソース」が好調に推移し、加工・業務用分野も売上を伸ばしたものの、主力商品の「本つゆ」やストレートつゆの既存商品が振るわず、つゆ類全体として前年同期の売上を下回りました。たれ類は、加工・業務用分野の商品や、主力商品である「わが家は焼肉屋さん」、「ステーキしょうゆ」等が堅調に売上を伸ばし、たれ類全体として前年同期の売上を上回りました。「うちのごはん」は、積極的な新商品開発や店頭販促活動を行い、また、ボックス型の紙容器に食材1品を加えてつくる「できたて My Deli」シリーズ等で新顧客を開拓し、前年同期の売上を上回りました。「洋ごはん☆つくる」シリーズも好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。この結果、部門全体として前年同期の売上を上回りました。



飲料部門

豆乳飲料は、飲用だけでなく料理用として訴求するなど、テレビや雑誌等の各メディアと連携を図りながら、市場拡大につながる販促活動を積極的に実施し、好調に推移しました。デルモンテ飲料は、トマトに含まれる成分がメタボリック症候群対策に期待ができるとの研究が発表された影響が継続しており、トマトジュースが売上を大きく伸ばしました。また、「フルーティトマト」や「ベジスタート」、ギフト商品等も貢献したことにより、デルモンテ飲料全体として前年同期の売上を上回りました。この結果、部門全体としては、前年同期の売上を大きく上回りました。



酒類部門

本みりんは、家庭用分野で、ギフト商品や家庭用容器が苦戦したものの、加工用分野で、新規顧客を開拓したことにより、前年同期を上回りました。国産ワインは今年度も「ソラリス」シリーズが「国産ワインコンクール2012」で金賞を受賞し、引き続き高い評価を得、売上を伸ばしました。輸入ワインも市場開拓に取り組んだ結果、前年同期を上回りました。この結果、部門全体として前年同期の売上を上回りました。



その他事業

臨床診断薬・衛生検査薬・加工用酵素、ヒアルロン酸等の化成品等の製造・販売、不動産賃貸及び運送事業、グループ会社内への間接業務の提供等を行っております。

臨床診断薬、衛生検査薬は好調に推移したものの、ヒアルロン酸が前年同期の売上を下回りました。この結果、前年同期の売上を下回りました。



国内の主なグループ企業

- キッコーマン食品(株)
- キッコーマン飲料(株)
- キッコーマンビジネスサービス(株)
- キッコーマンパイオケミファ(株)
- 日本デルモンテ(株)
- マンズワイン(株)
- 太平洋貿易(株)
- 平成食品工業(株)
- 江戸川食品(株)
- 北海道キッコーマン(株)
- 流山キッコーマン(株)
- テラヴェール(株)
- 宝醤油(株)
- キッコーマンソイフーズ(株)
- 総武物流(株)
- (株)総武サービスセンター

海外



食料品製造・販売事業

しょうゆ部門、デルモンテ部門、海外における健康食品等のその他食料品部門からなり、海外向けの輸出版売及び海外において当該商品の製造・販売を手がけております。

しょうゆ部門

北米市場においては、家庭用分野では、主力商品であるしょうゆに加え、しょうゆをベースとした調味料などの拡充に引き続き力を入れ、当社のブランド力を生かした事業展開を行ってまいりました。また、加工・業務用分野では顧客のニーズに合わせたきめ細かい対応を行ってまいりました。この結果、家庭用、加工・業務用分野共に、前年同期の売上を上回りました。

欧州市場においては、最需要国であるロシアをはじめ、重点市場である、ドイツ、フランス、イギリスでも順調に売上を伸ばし、現地通貨ベースで2桁成長を達成しました。

アジア・オセアニア市場は、アセアン地域が成長を維持し、現地通貨ベースで前年同期の売上を上回りました。

この結果、部門全体として好調に推移しました。



デルモンテ部門

当部門は、アジア・オセアニア地域で、フルーツ缶詰・コーン製品、トマトケチャップ等を製造・販売しております。香港は売上を伸ばしましたが、韓国市場が落ち込み、部門全体として、前年同期の売上を下回りました。



その他食料品部門

当部門は、主に北米地域において、健康食品を製造・販売しております。医師ルート向けの売上が引き続き好調に推移したことから、現地通貨ベースで伸長しました。



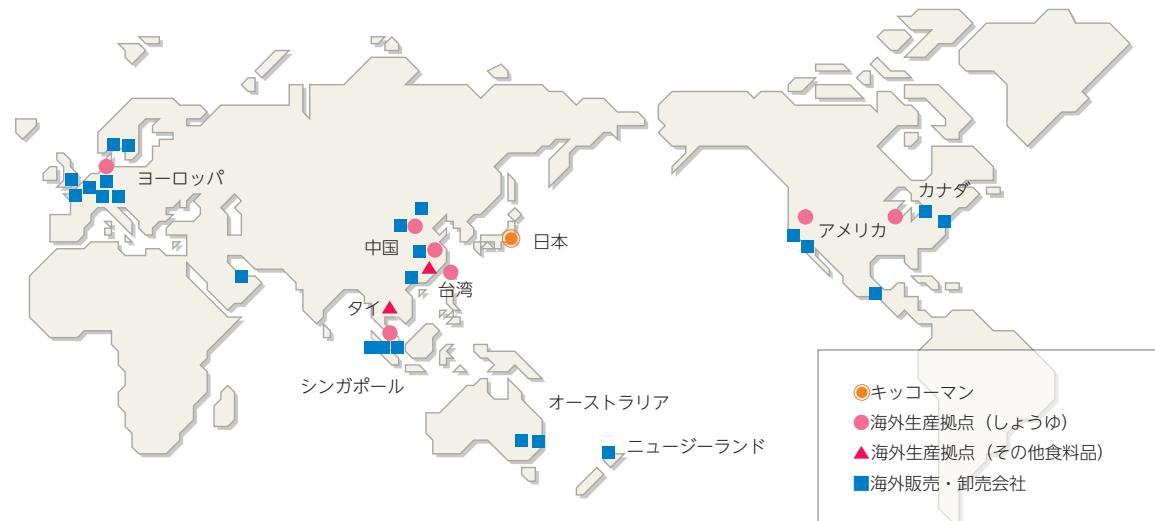
食料品卸売事業

国内外において、東洋食品等を仕入れ、販売しております。

北米では、アジア系マーケットにとどまらず、ローカルマーケットへの浸透を進め、順調に売上を伸ばしました。また、欧州、オセアニアでは引き続き日本食ブームが拡大しており、各地域で順調に推移しました。この結果、前年同期の売上を上回りました。



世界の拠点ネットワーク



海外の主なグループ企業

- KIKKOMAN FOODS, INC.
- KIKKOMAN SALES USA, INC.
- JFC INTERNATIONAL INC.
- JFC INTERNATIONAL (CANADA) INC.
- KI NUTRICARE, INC.
- COUNTRY LIFE, LLC
- KIKKOMAN FOODS EUROPE B. V.
- KIKKOMAN TRADING EUROPE GmbH
- JFC INTERNATIONAL (EUROPE) GmbH
- KIKKOMAN (S) PTE LTD
- KIKKOMAN TRADING ASIA PTE LTD
- DEL MONTE ASIA PTE LTD
- KIKKOMAN AUSTRALIA PTY. LIMITED
- JFC HONG KONG LIMITED
- JAPAN FOOD CORP (AUST) PTY LTD

独自性と顧客価値を追求

いつでも新鮮
しぼりたて生しょうゆ
やわらか密封ボトル 450ml

火入れ(加熱処理)を行う通常のしょうゆと違って、
生しょうゆは火入れをしません。
だから…

- 1 色鮮やか、
さらりとうまい
- 2 加熱時の
香ばしさが際立つ
- 3 「酵素」が生きているから、
しみ込みがよい※

※しぼりたて生しょうゆの場合



生しょうゆ
おいしさ実感

レシピ

詳しくはホームページで
ご紹介しています。



✕ まぐろとアボカドのづけ丼
しょうゆを日本酒等で割らずに、そのまま
ましましみを漬けて5分。酵素の働きによ
り、短時間の漬け込みで味が入ります。



✕ 鮭の香ばしソテー
フライパンで香ばしく焼き色を付けた鮭
に、酒・しょうゆを絡めます。生しょうゆ
の加熱時の香ばしさが広がります。



✕ 手づくり生ほんず
生しょうゆがかんきつ果汁のフレッシュ
な香りを引きだします。すだちやレモン
と、生しょうゆを2:1で合わせるだけ。



(左から)
いつでも新鮮
しぼりたて生しょうゆ
いつでも新鮮
しぼりたて丸大豆生しょうゆ
いつでも新鮮
塩分ひかえ丸大豆生しょうゆ
いつでも新鮮
味わいリッチ減塩しょうゆ※
※本品は生しょうゆではありません。

革新と新需要の創造

「日本人にとって、なくてはならない身近な調味料・ブランドであり続ける。」これが国内におけるキッコーマンしょうゆの事業ビジョンです。ビジョンを実現するため「革新と新需要の創造」を商品開発のテーマにしており、「いつでも新鮮しぼりたて生しょうゆ」シリーズは、これを具現化したものです。ライフスタイルや市場の変化に合わせ、しょうゆにも新しい変化が必要とされています。

独自性と顧客価値の追求

「いつでも新鮮しぼりたて生しょうゆ やわらか密封ボトル」の開発にあたっては、独自性と顧客価値、この2つのポイントを追求しました。

○独自性の追求
当社ならではの技術を結集してできた生しょうゆのおいしさはもちろん、「やわらか密封ボトル」も試行錯誤の末に生まれた次世代容器です(特許出願中)。

○顧客価値の追求
生しょうゆは、現代の味の嗜好にマッチした味づくりをしました。そして、やわらか密封ボトルは、開栓後の酸化を防ぎ、かつ使いやすさを実現しています。

価値訴求を实践し、しょうゆ市場を活性化

やわらか密封ボトルについて、さらにもう、今後マーケットの主役となっていくであろう単身世帯・2人世帯を見据え、中容量容器の満足度を上げることによって、「いつでも新鮮」シリーズの一層の市場定着が図れるものと考えています。価格競争から脱却し、生しょうゆと新容器の価値訴求を实践することにより、しょうゆ市場の活性化に貢献できると確信しています。

キッコーマン総合病院 新病院オープン



地域の皆様の温かいご支援のもと、2012年8月に新病院がオープンしました。安全・安心をモットーに設備と医療機器、スタッフを充実させ、今まで以上に、ここをこめた医療サービスで地域の皆様を幸せと笑顔で満たしていきます。

◎ 免震構造と災害対策

- ・免震構造…建物下部に免震装置を設置し、耐震安全性の高い構造になっています。
- ・災害対策…非常用発電機、非常用水・緊急排水槽等を備えているほか、エントランスホール等を活用し、災害医療対応ができるようになっています。

◎ アートワーク

患者さんの元気がでるような「癒しの空間」を実現できるよう、随所にアートワークを取り入れました。



◎ 産科診療の再開

2008年度に産科診療を休止しましたが、地域のお産を支え続けてきた当院には、分娩再開を地域の皆様や行政機関から強くご要望いただいております。このたび産科診療を再開することとしました。

<新病院の概要>

住 所 〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
T e l 04-7123-5911
(住所、電話番号は旧病院と同じです)
病 床 数 129床
診 療 科 内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、
整形外科、リハビリテーション科、眼科、
耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、
産婦人科、麻酔科

海外現地レポート(東南アジア)

多様な文化に合わせた販売戦略で、
拡大する市場を開拓

KIKKOMAN TRADING ASIA PTE LTD

KIKKOMAN
TRADING
ASIA PTE LTD



スタンディング
パウチ100ml

シンガポールを拠点として

キッコーマンは、魚醤等しょうゆに類似した調味料が普及しているアジアでも、他の海外市場同様、店頭試食販売やレシピ開発等、各国の食文化に合わせたしょうゆの提案を重ねてきました。1984年に東南アジアへの輸出拠点として、シンガポール工場でしょうゆの生産を開始し、現在でもシンガポールを拠点として商品の開発・製造を行っています。



「+k」キャンペーン

フィリピンでの
プロモーション活動



現地マーチャンダイザー研修



スタンディングパウチ100ml

フィリピンで拡大する中間所得層

中華系やイスラム系など、民族も多様で各国独自の食文化を持つアジアでは、それぞれの市場特性に合わせてきめ細かい販売戦略を展開しています。中間所得層が拡大しており、かつキッコーマンブランドの認知度が高いフィリピンでは、「+k」キャンペーンを展開しています。これは、現地の普段の食事にキッコーマンしょうゆを加えることにより、新たなおいしさを提案するものです。さらに、中間所得層向けに手頃でお求めやすい小型容器(スタンディングパウチ100ml)を発売しました。キャンペーン活動を通しての食の提案、試食サンプリングが功を奏し、流通の8割を占めるといわれる伝統的なマーケット(個人路面店や生鮮食品市

場)にも配荷が広がっています。また、タイでは、これまで主要だった加工・業務用市場に加え、家庭用市場に向けて現地語ラベルの商品を導入するなどして、一層の成長をめざします。

きめ細かい営業活動を継続

価格改定により仮需要のあった昨年上期実績を、今上期はすでに上回っており、市場の実需要は拡大しています。キャンペーンによる認知度アップ、各国でのきめ細かい営業活動の継続により、計画達成をめざします。そして「グローバルビジョン2020」実現へ向け、それぞれの市場に合ったマーケティング活動を通して本醸造しょうゆのおいしさをお伝えする啓発活動を継続していきます。



KIKKOMAN TRADING ASIA
PTE LTD
SALES & MARKETING
MANAGER
末次 範行

海外デルモンテ事業
香港でイベント開催

DEL MONTE ASIA PTE LTD



キッコーマンは、1990年にデルモンテ加工食品のアジア・オセアニア地域(フィリピンを除く)における商標使用権、販売権を取得しました。海外デルモンテ事業は、1992年より、当時はしょうゆの現地販売会社でもあったキッコーマン・トレーディング・シンガポール社(現 DEL MONTE ASIA PTE LTD)が、デルモンテ製品の販売を開始したところから始まりました。主要商品はフィリピン産パイナップル缶等のフルーツ缶詰、米国産野菜缶詰、ドライフルーツ等で、近年はタイに設立したサイアム・デルモンテ社(SIAM DEL MONTE COMPANY LIMITED)で製造しているコーン、フルーツ製品や、中国の福建省アモイ市のデルモンテ・フード・シャーマン社(帝門食品(廈門)有限公司)で製造しているトマトケチャップの販売に力を入れています。デルモンテブランドは香港、韓国、シンガポール等でも知られており、香港では2012年9月、米国でデルモンテブランドの缶詰製造が始まって120年を記念したイベントを開催しました。今後は、中国、インドネシア等でも、家族で楽しんでいただける、安全でおいしい商品をより多くの人々にお届けしてまいります。

連結貸借対照表 (要約)

科目	当第2四半期末 (平成24年9月30日現在)	前期末 (平成24年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	111,058	133,804
固定資産	194,584	197,567
有形固定資産	97,970	99,170
無形固定資産	26,427	26,879
投資その他の資産	70,186	71,517
1 資産合計	305,642	331,371

POINT 1

資産の部
有価証券、現金及び預金が減少したこと等により流動資産は減少し、投資有価証券、有形固定資産が減少したこと等により固定資産は減少しております。
この結果、総資産は減少しております。

POINT 2

負債の部
社債の一部において、満期到来による償還を実施しました。1年内償還予定の社債が減少したこと等により流動負債は減少し、繰延税金負債、役員退職慰労引当金等の減少により固定負債は減少しております。
この結果、負債合計は減少しております。

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (平成24年9月30日現在)	前期末 (平成24年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	43,366	61,114
固定負債	102,104	102,903
2 負債合計	145,470	164,018
純資産の部		
株主資本	186,408	189,682
資本金	11,599	11,599
資本剰余金	21,209	21,209
利益剰余金	163,892	162,149
自己株式	△ 10,292	△ 5,275
その他の包括利益累計額	△ 27,884	△ 23,920
新株予約権	179	179
少数株主持分	1,468	1,410
3 純資産合計	160,171	167,352
負債純資産合計	305,642	331,371

POINT 3

純資産の部
自己株式の取得による減少、円高による為替換算調整勘定の減少等により、純資産は減少しております。

連結損益計算書 (要約)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前年同四半期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
売上高	147,158	141,834
売上原価	85,492	83,927
売上総利益	61,666	57,907
販売費及び一般管理費	51,309	48,543
営業利益	10,356	9,363
営業外収益	2,148	1,952
営業外費用	3,296	3,139
経常利益	9,207	8,176
特別利益	1,517	86
特別損失	2,668	1,141
税金等調整前四半期純利益	8,057	7,121
法人税等	3,188	2,696
少数株主損益調整前四半期純利益	4,868	4,424
少数株主利益	63	33
四半期純利益	4,805	4,391

POINT

連結損益計算書

円高に伴う為替換算の影響が減収効果を及ぼしましたが、トマトジュース・豆乳等の国内飲料部門が大きく伸長した影響等により、売上高は増収となり、営業利益、経常利益は増益となりました。特別利益で補助金収入や受取賠償金等、特別損失で投資有価証券評価損や固定資産圧縮損等を計上した結果、税金等調整前四半期純利益、四半期純利益も増益となっております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前年同四半期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
1 営業活動によるキャッシュ・フロー	11,006	7,052
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,985	△ 11,045
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 27,245	△ 2,747
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 879	△ 1,600
現金及び現金同等物の増減額	△ 25,104	△ 8,341
現金及び現金同等物の期首残高	45,867	28,855
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	69	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,832	20,513

POINT 1

営業活動によるキャッシュ・フロー
法人税等の支払、たな卸資産の増加、運転資金増加等による支出がありましたが、税金等調整前四半期純利益に減価償却費等の非資金項目等を加算した営業活動による収入が上回り、純収入となっております。

POINT 2

投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産の取得による支出等により、純支出となっております。

POINT 3

財務活動によるキャッシュ・フロー
社債の償還による支出、自己株式の取得による支出、配当金の支払等により、純支出となっております。

会社の概要

(平成24年9月30日現在)

商号 キックマン株式会社
 設立 大正6年12月7日
 資本金 11,599百万円
 主な事業 持株会社としてのグループ戦略立案及び各事業会社の統括管理
 従業員数(連結) 5,457名
 本店 〒278-8601 千葉県野田市野田250番地
 電話 04-7123-5111

役員

(平成24年9月30日現在)

取締役

取締役名譽会長 茂木友三郎
 取締役会長 染谷光男
 代表取締役社長 堀切功一
 代表取締役 齋藤賢一
 取締役 根岸康二
 取締役 重山俊彦
 取締役 天野克美
 取締役(社外) 山崎孝綱
 取締役(社外) 福本井俊
 取締役(社外) 尾崎

執行役員

社長 CEO 染谷光男
 専務執行役員 齋藤賢一
 専務執行役員 根岸康二
 常務執行役員 天野克美
 常務執行役員 山崎孝綱
 常務執行役員 福本井俊
 常務執行役員 尾崎
 執行役員 松崎文治
 執行役員 清水和孝
 執行役員 濱田昇旭
 執行役員 三村直泰
 執行役員 松山美苗
 執行役員 小澤若也
 執行役員 般若山隆幸
 執行役員 石垣博一
 執行役員 福島一起
 執行役員 白井宏
 執行役員 三宅木

監査役

常勤監査役 中村隆晴
 常勤監査役 森孝一
 監査役(社外) 井口武雄
 監査役(社外) 高後元彦

株式の状況

(平成24年9月30日現在)

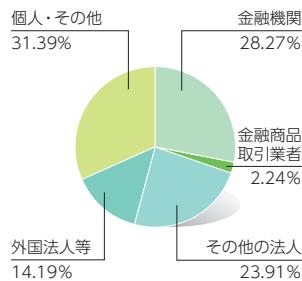
発行可能株式総数 600,000,000株
 発行済株式の総数 210,383,202株
 (前期末比 増減なし)
 株主数 28,397名
 (前期末比 1,272名減)
 大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行(株)信託口	10,759千株	5.38%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)信託口	10,189	5.09
(株) 千秋社	6,720	3.36
(株) 茂木佐	6,140	3.07
明治安田生命保険(相)	4,959	2.48
(有) くしがた	4,171	2.08
日本生命保険(相)	3,951	1.97
(株)丸仁ホールディングス	3,884	1.94
(公財)野田産業科学研究所	3,727	1.86
(公財)興風会	3,272	1.63

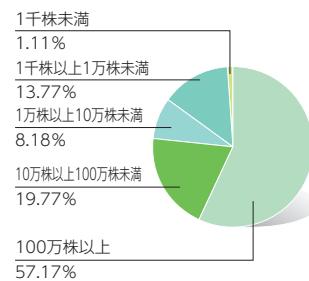
(注) 1. 当社は、自己株式10,231,608株を保有しておりますが、上記大株主の記載からは除外しております。
 2. 持株比率は発行済株式総数から自己株式を控除した株数により算出しております。

株式の分布状況 (平成24年9月30日現在)

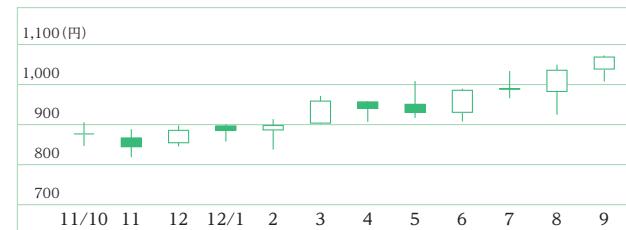
所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



株価の推移



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金 3月31日
 受領株主確定日
 中間配当金 9月30日
 受領株主確定日 (当第2四半期における中間配当のお支払いはございません。)
 定時株主総会 6月開催

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 電話 0120-232-711 (通話料無料)
 上場金融商品取引所 東京証券取引所 大阪証券取引所

公告方法 電子公告により行います。
 公告掲載URL <http://www.kikkoman.co.jp/ir/library/koukoku/index.html>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待制度のご案内

当社では、株主の皆様へ当社グループ商品の一層のご理解・ご支援をいただくため、株主優待制度を実施いたしております。

- 対象 毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1,000株(1単元)以上ご所有の株主様を対象としております。
- 内容 年1回一律に2,500円相当の当社グループ商品の詰め合わせを贈呈いたします。
- 実施時期 毎年7月末日までに実施いたします。

特別口座から証券会社の口座への振替について

特別口座に記録された株式を市場で売却するためには、株主様が証券会社に開設する振替口座に株式を振り替える必要があります。ご売却を希望される際は、証券会社に口座を開設した後、株主メモ欄に記載の三菱UFJ信託銀行にご連絡いただき、口座振替手続きを行ってください。



※「特別口座」とは、株券電子化前にほりり(株式会社証券保管振替機構)に株券を預託されなかった株主様(端株を所有されていた方を含む。)のために、株券電子化後に当社が開設した口座です。

IRレポートについて IRとはInvestor Relationsの略であり、株主・投資家の皆様に、当社グループの財務や業績等の情報を公開することです。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
 アクセスコード 2801

携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、約2ヶ月間(平成25年2月10日まで)です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を贈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media)についての詳細 <http://www.a2media.co.jp> ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
 TEL: 03-5777-3900 (平日10:00~17:30)
 MAIL: info@e-kabunushi.com